

調査実施要領にありますように、本調査結果は、学力や学習状況の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、学校として以下の結果について真摯に受け止め、子どもたちの学力並びに学習意欲の向上に努めてまいります。保護者のみなさんのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 【学力状況調査】 <学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

【国語】		【算数】	
	<p>→喜志小学校 --大阪府(公立) --全国(公立)</p>		<p>→喜志小学校 --大阪府(公立) --全国(公立)</p>
<p>(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項</p>			
<p><b>全体的な状況</b></p> <p>すべての領域で、平均正答率が大阪府・全国ともに上回っています。特に、今まで苦手とされていた「書くこと」で、大きく力を伸ばしています。無回答はほとんどなく、どの子どもも、学びに向かって、粘り強く頑張る姿勢がみられます。</p>	<p><b>課題</b></p> <p>目的に応じて、「文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つける」「中心となる語や文を見つけて要約する」の問題と、「主語と述語」「修飾と被修飾」の関係を捉える問題で課題がみられます。</p>	<p><b>全体的な状況</b></p> <p>すべての領域で、平均正答率が大阪府・全国ともに上回っています。特に、記述式問題で大きく上回っています。また、どの領域においても、概ねバランス良く力をつけることができています。</p>	<p><b>課題</b></p> <p>「数と計算」の領域では、商が1より小さくなる場面(8人に4Lのジュースを等分する)で、数量の関係を捉えて立式する問題に課題がみられます。商が1より小さくなる計算結果について、日常生活の場面を思い返し、判断できるようにすることが必要です。</p>
<p><b>成果</b></p> <p>朝の時間等を使って、漢字の習熟に取り組むことで、漢字を「読み書き」できるだけでなく「使える」ようになってきています。また、文章を書く時、類語辞典を活用したことで、言葉選びを意識するようになり、自分の考えが伝わるような書き方の工夫がみられます。</p>	<p><b>課題解決に向けた取組み</b></p> <p>中学年から、文章の要点・要約の仕方を学び、系統的に繰り返し指導をしています。さらに、「子ども新聞」を活用し、記事の紹介をしたり、優れた文章を書き写したりすることで、要約を学んでいます。また、文法の復習に取り組み、文章の構成を意識させています。</p>	<p><b>成果</b></p> <p>「変化と関係」の領域では、小数や分数の乗法・除法、割合・速さの学習など、伴って変わる二つの数量の関係を数直線を用いて、4・5年生から繰り返し学んでいます。数直線を使うことで、問題の意図をつかみやすくなり、理解することができています。</p>	<p><b>課題解決に向けた取組み</b></p> <p>問題に取り組む時、根拠をもって自分の考えをまとめることを意識させるようにしています。また、昨年度より「データの活用」という新しい領域が加わりました。日常生活の問題に結びつけ、データを収集・分析し、問題解決する力を身につけていきます。</p>